



観光だけじゃない！「日本版DMO」を核に、「住んでよし、訪れてよし」の「観光地域づくり」を進めよう

安中市 産業政策部 観光課

■最近よく聞く日本版DMOって何？

安中市は、日本版DMOとなる予定の「(一社)安中市観光機構」を昨年9月に設立させ、今年の4月からは旅行業の資格も取得し、本格的な観光誘客に取り組もうとしています。最近よく耳にする日本版DMOですが、実は単に観光客を呼び込むことだけがその役割ではありません。

日本版DMOは、観光を通じた地域づくりを行う際の核となるべき組織であるとされています。例えば、地域のお祭りがただ単に地域の人だけの参加で終わるのではなく、そこへ観光客を呼び込むこと、さらにはそのお祭りで、地域の高齢者が観光客とのふれあいを通じていかに元気になってくれるか、あるいは、子どもたちが祭りを地域の誇りだと思えるかを考え、それらに係わる組織の間を取り持ちながら、地域が経済的にも精神的にも豊かになるようにマネジメントする。これが日本版DMOに求められる役割です。

■まちづくりと日本版DMOはどう関係しているの？

日本版DMOとは、そうした名前の組織ではなく、あくまで日本版DMOとしての役割を果たす機能のことを指しています。その機能とは、前述のように地域を経済的にも精神的にも豊かにするよう、観光を基軸に政策や地域活動をマネジメントすることに加え、専門的な人材のもと観光客に対する情報を一元的に発信することです。観光情報の一元化とは、一つの窓口で地域のお祭り情報・お宿の予約から紅葉の状況まで全てを網羅することです。地域の様々な団体の観光情報や資源を取りまとめ、それを魅力的にお客様に見せ、誘客に結びつけるには専門的な能力を持つ人材が必要です。安中市では、観光関係団体や市民が参加するワークショップを開催し、その場で出た地域の観光資源を楽しむプランをパンフレットにまとめて、旅行会社に提案しています。そうした取り組みにより、地域住民が誇りを持つ観光資源を、観光客にも受け入れられるよう魅力ある形に磨き上げる流れをつくっています。さらに、観光客にも市民にも魅力的に思える「住んでよし、訪れてよし」の景観づくりの提案を行うことなども、日本版DMOに求められる役割となっています。

■安中市が日本版DMOの設立に際して行ったことは？

安中市は、日本版DMOに取り組むために、まずは地域の団体がバラバラに行っていた過去の取り組みに対する反省を行い、日本版DMOを軸に連携していくという意識あわせを行いました。約30の地域団体からなる委員会を結成。2ヶ月に1度の会議で日本版DMO設立への取り組みを全体で確認しました。また、実務的なところでは、若者や女性を集めたワークショップを昨年度24回開催し、安中市の観光振興プランや、安中市を楽しむ滞在交流型プログラムを作成してきました。この際には、群馬県まちづくりファシリテーターの資格をもった職員が取りまとめをサポートしました。この他に、旅行会社を対象としたファミトリップやシンポジウムなどの事業も実施しました。



楽しい雰囲気を心がけたワークショップ



シンポジウムで広域での連携意識醸成も図った

■今後の課題と、日本版DMOをきっかけとした元気な地域への期待

日本版DMOには県内他市町村も取り組んでおり、最適な日本版DMOの形は地域によって千差万別です。そうした中でも、①安定的な財源の確保、②継続的な地域啓発と市民参加、③専門人材の確保育成など、全国的に共通する課題は数多くあります。しかしながら、官民など様々な壁を取り払い、交流人口の増加のため地域内外の連携を促すことを使命とする日本版DMOを通じた観光地域づくりは、少子高齢化が一層進む地方においてはコミュニティの維持等に大きな役割を果たすものであると言えます。将来への危機感を共有し、地域を豊かにするという共通の目標に向かって団結することが、日本版DMOと観光地域づくりへの第一歩であり、大きな目標であるとも言えるのではないのでしょうか。

